

NY 発

NPT 再検討会議
代表団ニュース

第3号 2015年4月28日

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 ユーブプラザ 11F

日本生協連 組合員活動部

TEL: 03-5778-8124

FAX: 03-5778-8125

4月27日（NY現地時間）の活動

・原爆展が始まりました！

国連本部のロビーにて、原爆展が始まりました。この原爆展は、NPT 再検討会議の会期に合わせて開催され、全国の生協からの募金を使って制作された多くのパネルが飾られています。

開催初日の今日は被爆者による証言活動が行われ、夕刻からはオープングレセプションも開催されました。

☆ 8班 原爆展での証言活動（10～12時）

NPT 再検討会議の初日ということもあり、原爆展のオープニングセレモニーには、報道陣をはじめ、多数の方が参加していました。今回の原爆展のテーマや、3回目となる今回に至るまでの経緯などについての説明の後、被爆者による証言活動が始まりました。それぞれの被爆者の体験に対して、年齢や性別、国籍を問わず、多くの人が熱心に耳を傾けてくれました。

参加者の中には、被爆した方の生の声を聞き、まわりの友人たちに伝えたいという思いを持った少年がいました。証言活動が終わったあとも被爆者とともに展示を見ながら学ぶ姿を見て、“伝え続けていくことの大切さ”を改めて感じました。

被爆体験を語る西本さん(左)と
耳を傾けるルイスくん(右)

☆ 9班 原爆展での証言活動（12～14時）

被爆者の眞田さんの証言活動や、北海道被ばく者の証言集の配布と原爆展へのお誘い声掛け、折鶴を使った来場者との交流などが行われました。

証言集を受け取った人がパネル展へと足を運んでくれたり、若い人が足を止めてパネルをしっかりと見てくれたりする様子から、活動の意義を実感することができました。

眞田さんは、今回この証言活動に初めて参加されました。これまでNYに来ることが出来なかったこと、これが、自分にとっては最後になるかもしれないという思いからだそうです。眞田さんの、「自分一人が生き残った負い目とだからこそ伝えたいのだ」という熱い思いに、涙がこぼれそうになりました。



原爆展で証言を行う眞田さん

☆ 11 班 原爆展での証言活動（12～13 時）

約 15 人の聴衆に向けて、証言者が原爆の絵本の内容を見せながら、30 分の証言活動を行いました。また、原爆展では 2 人の女性がパネルの写真を見て、互いに抱きあいながら泣いていました。

被爆者の方の誠実な証言を聞いていると、この思いは絶対に引き継ぎ、このような被爆者の方の生の声を聞いて活動し続けていかなければいけないと改めて感じました。今後、より多くの方に足を止めてもらえるよう、工夫したいと思います。



絵本を持つての証言活動

☆原爆展 オープニングレセプション

夕刻には、原爆展会場にステージが設置され、オープニングレセプションが催されました。多くの人々が参加する中、平和首長会議の広島市・松井市長や外務省の佐野大使、アンゲラ・ケイン国連軍縮上級代表、日本被団協の田中事務局長などが原爆展を記念し、核兵器の廃絶に向けたスピーチを行いました。

レセプションの最後には、松井市長、佐野代表、日本被団協・谷口会長によるテープカットが行われました。



松井市長 谷口会長 佐野大使
(右から)

・学校訪問など証言活動

☆ 6 班 「54 中学校 (Middle School 54) での証言活動」

54 中学校の 8 年生約 90 人に、被爆者の中村雄子さん、福島富子さんが、ご自身の被ばく体験をお話しされました。話を聞く子どもたちの年齢は 13 歳、それは中村さんが被ばくされた時と同じ年齢です。子どもたちは、自分と同じ年齢で味わった中村さんの恐ろしい体験、福島さんが語った被ばく後、家族離ればなれになった生活の話を真剣に聞き入っていました。

お話の後、「被ばくして、体にどのような影響があるの?」、「原爆を落としたアメリカは憎いのですか?」、「なぜ被ばくしたことを隠す人がいるの?」など率直な質問がありました。

真剣な顔で話を聞いていた子どもたちは、最後に千羽鶴をプレゼントされ、おりがみの折り方を教えてもらおうと、笑顔になり打ち解けて、楽しく親睦を深めることができました。

自分と同じ年齢での被爆の証言ということもあり、家族と引き離されてしまうこと、戦争や原爆の恐ろしさ、そして核兵器が生き残った被爆者の人生に与える影響を、自分のこととして感じられる場になったと思います。



千羽鶴を渡す中村さん

☆ 7班 ホワイトプレインズ高校での証言活動

ホワイトプレインズ高校にて、加田弘子さんと宇田茂樹さんによる証言活動を行いました。参加人数約 180 人で、150 の席が満席となり、立って話を聞く生徒もいました。質疑応答のほか、資料の展示や平和への願いの寄せ書きを行いました。



証言活動を行う加田さん

・平和首長会議「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」で署名をお渡ししました！

被爆者、次代を担う若い人たち、平和な暮らしを願う生活者の声を結集し、ヒロシマ・ナガサキの悲願である 1 日も早い核兵器廃絶を広く世界に訴えることを目的に、平和首長会議の主催でヒロシマ・ナガサキアピール集会が開催されました。広島市長、長崎市関係者、国連事務総長代理、日本国外務大臣、広島県知事、被爆者、生協関係者、ユース関係者、平和首長会議加盟年関係者、NGO 関係者など約 100 人が参加しました。生協からは団長・副団長はじめ 14 人が参加しました。

まず主催者の平和首長会議の会長である松井広島市長のあいさつの後、長崎市長（大久保平和推進課次長代読）、国連事務総長（バージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表代読）、つづいて岸田外相から「被爆地出身の外務大臣として、核兵器廃絶のために 1 歩でも 2 歩でも前進させることを目的にやってきた。身の引きしまる思い」とのあいさつがありました。

続いて、国連への平和首長会議要請文を松井市長が読み上げ、核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名を生協代表団の本田団長からバージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表へ提出し、ユース代表からは折鶴を手渡しました。

被爆者を代表して、中村澄子さん、田中重光さんが被爆の実相を訴えられました。その後、本田団長から「日本の協同組合として『平和とより良き生活のために』というスローガンのもとで、幅広い消費者・市民の活動として平和の問題に取り組んできた。ここニューヨークで、全世界に向けて被爆者の方とともに、核兵器廃絶に向けた願いを発信します」とスピーチしました。続いて広島ユース代表の高校生、長崎ユース代表の大学生から平和の取り組みのプレゼンテーションがありました。最後にヒロシマ・ナガサキアピールを参加者全員の拍手で採択しました。



バージニア・ガンバさんに署名目録を手渡す本田団長



集会のあと、バージニア・ガンバさんにメッセージカードの一部をお渡しできました（署名提出のタイミングで渡せなかったもので、よかったあ〜。）